

国語 (50分)

□ 次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

戦後になって、テレビジョンがあらわれ、またたく間に普及した。テレビはラジオより技術的に進んでいて映像を送ることができる。送り手は受け手を確保することなく、映像、情報をばらまき、放送している点で、ラジオとテレビは同類である。受け手を確保し、その反応をじかに知ることができないところが、放送のなきどころである。放送するがわは受け手をとらえることに腐心した結果、視聴率というものを考え出し、それで受け手の反応を知ろうとするのだが、数字はものを言わない。コミュニケーションは、印刷文化の始まったときから、ずっとものを言う受け手を欠いたままであったが、ラジオ、テレビでも、同じように受け手は□。ただ、視聴率を知ることができるようになって、受け手は数字では存在を主張するようになった。放送関係者は、この視聴率の数字をひどく怖れ、それに□喜□憂するようになり、受け手は、無言ながら存在を明らかにするようになって、これが政治の世界でも波及し、支持率の数字が政治を動かすところまでになった。

印刷革命以来、姿なく、声なき受け手は、マスコミ社会になって数字の形ではあるが、送り手に、いくらか反応を返すようになったのである。出版物、放送などの送り手は、もともと、受け手より上位に立っていたのだが、マスコミにおいて、マスが数値化されるようになって、受け手の存在を抽象的に表現した。受け手の地位が向上しつつある。コミュニケーションのデモクラシー、送り手と受け手が対話する状況に向かって、動き出していると考えてよいし、受け手の解放といえるかもしれない。

相手を確認することなしに、メッセージを発してきたのは、出版、新聞、ラジオ、テレビなどを通して、一貫、共通している。本も新聞もラジオ、テレビも、はっきりしない、顔の見えない相手に向かって、メッセージを発信している点で、一方的、独善的である。しかし、受け手はそれをおおむね無批判に受け入れてきたのである。第二人称不明確な中での第一人称文化であるといってもよい。

そういう送り手中心文化の性格を明らかにしたのが、通信のメディアである。

放送よりさらに電話という通信が行なわれるようになったことを現代の人間は忘れていくかもしれないが、通信の原型は手紙で、手紙は受け手を十分考慮して書かれる。読者を想定しないで本の原稿を書く著作者とは違って、個人的感情がこめられ、血の通ったコミュニケーションである。電話が、印刷や放送とまったく違った性格のコミュニケーションであることをごく最近まで、はっきり認識する人がすくなかった。受け手を考慮すれば、通信は放送、出版よりヒューマンな様式であることはなおよく理解されていないように思われる。

通信が放送よりすぐれているのは受け手が確定しているからで、受け手からのフィードバックは放送には不可能に近いが、通信では当たり前のことである。受け手が送り手より下位にある状況では、これが重視されにくい。電話が、ラジオ、テレビより早くから普及していたにもかかわらず、社会的変化をおこすことがすくなかったのは、受け手のステイタス向上がともなわなかったためである。第一人称中心文化では、第二人称が軽んじられる傾向があることが、現代はようやくはっきり認められるようになった。

そういうわけですでに通信革命がおこっているとは断言できないけれども、これからおこる可能性は大きいと考えられる。

きっかけは、携帯電話である。

ケイタイがあらわれたのはつい最近のことだが、またたく間に広まって、若い世代でケイタイをもたない人は例外的である。いっどこからでも遠くの相手とことばを交わすことができる、というのは、これまで想像もなかったことである。ケイタイをもつと、そのとりこになるのは、これまでの送り手中心のコミュニケーションにない「おもしろさ」「たのしさ」「あたたかさ」など、人間味が伝わるからであろう。この新しいコミュニケーションには人を酔わせる力がある。いまはまだ動き出したばかりの通信革命だが、やがて、印刷文化、放送文化とは違った新しい文化を創り出すはずである。そうなれば、第一人称と第二人称を固定する従来の文法に新しい修辭が生まれるのも不可能ではないように思われる。

活字ばなれ、本ばなれも、通信革命の前ぶれであるともできる。ケイタイ文化が進めば、これまでとは違った新しいコミュニケーションの様式が生まれるだろう。第一人称と第二人称の関係が随時交換されるとなれば、おのずから、水平コミュニケーション文化がてんかいたすると想像される。

印刷革命以降、ほぼ五百年つづいた第一人称中心の発言文化は、ここへきて移動体通信によって新しいライヴァルと遭遇することになった。それを一般はまだ気づいていない。第一人称中心のことばは放言、放送の性格がある。第二人称のことばはほんのすこししか考えない。文語文法とパブリック・スピーキングを通して、それを考慮に入れることができれば、本当の通信革命になる。

(外山滋比古「ことば点描」より。一部省略したところがある。)

- 注1 腐心……あることを達成するためにあれこれと心を使うこと。
注2 デモクラシー……民主主義。ここでは、送り手と受け手が平等に近くなった、という意味。
注3 ヒューマン……ここでは、人間の温かみを感じられる、という意味。
注4 ステイタス……社会的地位・身分のこと。

(1) 線部 a e の漢字はひらがなに、ひらがなは漢字に直しなさい。

(2) □にあてはまる語句として最も適切なものを次のア～エから一つ選び、記号で答えなさい。

- ア ものを言う イ ものを言わない ウ 存在を主張する エ 反応を知ろうとしない

- (3) 線部①「視聴率」とありますが、「視聴率」が考え出された目的を本文中の言葉を使って説明しなさい。
- (4) 線部②「喜」が「状況が変わるたびに喜んだり、心配したりすること」という意味の四字熟語になるように、□に共通して入る漢字一字を答えなさい。

- (5) 線部③「受け手の存在を抽象的に表現した」の説明として最も適切なものを次のア～エから一つ選び、記号で答えなさい。
- ア それぞれの詳細な反応は分らないが、数字によって受け手の存在が送り手に意識されるようになった。

イ マスコミ社会で、送り手が受け手の心の奥底からの感情をじかにつかむことができるようになった。

ウ マスコミ社会では、受け手の反応が分かりにくく、調査できないものであることがはっきりした。

- エ 視聴率や支持率の変化に敏感になることで、受け手の気持ちを読み取ることができるようになった。
- (6) 線部④「第二人称不明確な中での第一人称文化であるといってもよい」とありますが、ここでの「第一人称」「第二人称」とは何を指していますか。本文中の言葉からそれぞれ三字で抜き出しなさい。

- (7) 線部⑤「通信が放送よりすぐれているのは受け手が確定しているから」とありますが、受け手が確定することで、通信はどのようなコミュニケーションとなるのですか。本文中の言葉を使って説明しなさい。

- (8) 線部⑥「この新しいコミュニケーション」とありますが、どのようなコミュニケーションですか。「……コミュニケーション。」とあとに続くような形で説明しなさい。

- (9) 線部⑦「従来の文法に新しい修辭が生まれる」とありますが、ここでの「文法」「修辭」は何をたとえたのですか。最も適切なものを次のア～エからそれぞれ一つずつ選び、記号で答えなさい。

「文法」

ア 通信

イ メディア

ウ 送り手

エ コミュニケーション

「修辭」

ア 連続性

イ 具体性

ウ 関係性

エ 水平性

- (10) この文章の説明として最も適切なものを次のア～エから一つ選び、記号で答えなさい。

ア 印刷革命以来主流となった送り手中心のコミュニケーションについて説明した後、携帯電話の登場によりその問題点が自覚されつつあることを指摘し、最後にケイタイ文化が進むことによって新しいコミュニケーションが生まれる可能性を示して論を結んでいる。

イ 戦後の放送文化におけるコミュニケーションの様式の問題点を指摘した後、電話をはじめとした通信のメディアが受け手の地位を向上させてきたことを指摘し、最後に携帯電話の普及によって活字ばなれという新たな問題点が浮上してきたことに危機感を示している。

ウ 従来のコミュニケーション様式における送り手と受け手の関係性について好意的な意見を述べた後、送り手と受け手の関係性が決まっている通信のメディアの利点について触れ、最後にその通信メディアの代表である携帯電話と通信革命の今後について予測している。

エ 印刷・放送文化におけるコミュニケーション様式の歴史的变化について語った後、正反対の性格をもつ通信文化におけるコミュニケーション様式を対比的に示し、最後に筆者が理想とするまったく新しいタイプのコミュニケーションのあり方を説いて論を終えている。

二 次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

羽修館高校に通う有人は、中学校では同じ吹奏楽部だった、吹奏楽部の強豪である旺華高校に通う風香と川原の橋の下で話をして
いる。羽修館高校では有人が中心となって吹奏楽同好会を結成しており、有人はそのメンバーを思い浮かべながら、話をしてい
トロンボーンで音が出ただけではしゃいでいた透田や、まるっきり遊びの感覚でリズム楽器を叩きまくっていた川浜の顔が浮かんだ。
クラリネットからトランペットに切り替えた花形と山尾だって、吹き心地の違いを面白がっている。みんな上手く吹く以前に、まずは音
を出すこと自体を楽しんでいるのだ。まだまともな合奏もできない九人だけど、音楽の喜びは日々味わっている。

「この曲だって」楽譜を指さした。「上手くなきゃ『アルメニアン・ダンス』の良さを味わえないってわけじゃない。中学の時だって、
つかえながら吹いてても楽しかったじゃん」

「でも、音楽の喜びっていったら」風香が言い返した。「練習かさねて自分を高めて辿り着けるものだってあると思うけど。有人くんは
もともと、私よりそれができたはずだし——」

風香はそこで口を噤んだ。有人が旺華に入っていたら、という言葉が呑み込まれたのだろうか。それは多分、風香の優しさなのだろう。けど②有人は反発を覚えた。そうやって気づかれること自体、見下されているみたいで面白くない。

「要するに、俺が向上心をなくしてるってことか」
思わず呟いた。風香は何も答えない。その沈黙に苛立った。

「まあとにかく」ため息と共に告げた。「まずは一緒に吹いてみようぜ。難しい話はそれからだ」

風香は無言でうなずいた。二人してサックスの準備にばかり、同じ楽譜に向かって並んだ。

こうやって一緒に吹けるのだって、音楽の喜びに違いない。なのに風香は、どうして悲しそうな顔をしているのだろうか。そんな思いと共に息を吸い込み、同じ曲を吹き始めた。

密かに予想していた通り、有人の音は荒れていた。

風香がオーディションの時にイメージした音とは別人みたいだった。息と指使いが微妙にずれるようだし、以前ならもっと伸びていたはずの音が途中で消えて倍音も響かない。——風香が上手くなったからそう感じるのかもしれないが、それを寂しく感じた。

有人自身も自覚があったらしい。吹き終えたところで首を振った。

「ダメだ、しっかり練習してる風香には敵わねえや」

有人も高校でこの曲に取り組んでいたら、こうはならなかっただろう。——頭に浮かんだが、口にはしなかった。かわりに漏れたのは、ちょっと冷たく響く言葉だった。

「やっぱり上手くなるうとしなきゃ、自分で納得いく音って出ないよ」

言いすぎかなと思ったが、正直な気持ちだった。下手なら下手なりの良さがあるとは言っても、有人はもともと上手いのだ。思うような演奏ができない歯痒さがあるはずだ。

「何回か練習すりゃあ、もうちょっと思い切り吹けると思うんだけど」

有人はリードに唇をつけ、軽い息で速いフレーズを繰り返している。自分の音を思い出そうとしているみたいで吹き方だった。

「一年生の指導とかで基礎をやり直していると、自然と音がよくなるよ。私もそうだったもん」

④軽い口調で言ってみた。今度は上から目線の言い方にならないように気をつけたつもりだったが、有人は□□したように言い返してきた。

「羽修館には、サックスを指導する相手なんかいないって」

口元に、苦笑というより皮肉っぽい笑みが浮かんでいる。有人がそんな笑い方をするのも珍しかった。

「いま俺が気にかけてるのは、少ない人数で応援演奏するための選曲とか、初心者でも吹きやすいように楽譜を直すとか、自分のサックスでどれだけかいい音出すかってことなんだぜ」

「でも、いい音を出す意識はいつも持ってた方がいいよ。旺華の角谷先生だって、日頃の心がけが大事ってところから指導していくんだよ。それが先輩から後輩にも伝わっていった——」

⑤「そりゃ、俺だってそういうところで吹きたかったけど……いや、それより」有人は首を振った。「俺にとったら、羽修館に入って仲間集めて、同好会作って……そこでやってきたことの方が大事なんだ。旺華の真似するよりも、羽修館ならではの音を出したい」

「別に、真似させたいわけじゃないけど」

風香の中で寂しさが膨らんだ。——去年、旺華の合格発表の後で、高校は別々になっても、吹奏楽は続けようと約束しあった。今だって、一緒に頑張っていたい気持ちは同じなのに、どうして伝わらないのだろうか。

⑦春に羽修館の初ステージを見た時から、こうなる予感はいっていた。二人で吹奏楽を続けているといっても、目指す方向がずれてきた。風香の思いを有人にぶつけてもぶつかり合うだけなのかもしれない。

「それじゃ、今度は羽修館の音で吹いてみてよ」

気を取り直して提案した。有人も、やってみるかと思ってくれた。

「第五楽章の『行け、行け』からでいいか？　ここが一番、雰囲気出せそうだし」

「いいよ。また有人くんがファーストで、私がセカンドね」

⑧サックスを構えてほっとした。二人で話したくて会ったのに、言葉が途切れた方が楽になるのは何故なのだろう。

有人の主導で吹き始めた。——そのまま音を通して分かり合えたらどんなにいいかと思っただけ、二人の音はさっきよりも合わなくなった。いつもの練習通りに吹いている風香に対し、有人がわざと飛び跳ねるように音を弾ませるせいだ。

速い旋律を軽やかに吹きこなししているのはさすがだし、時々その音に風香が引っ張り込まれそうになる。そういえば中学の時にも一緒に吹くとそんな感覚があったなと懐かしくなったが、今はしっかりと自分の吹き方をキープできた。そのせいで音が合わないのは分かっていたが、ここは譲りたくなかった。

「風香、かっちりした吹き方だなあ」

吹き終わると、有人は真っ先にそう言った。風香の頑なさに呆れているみたいで口ぶりだったし、その点は風香も認めるしかなかった。⑨「部活で吹いてると、知らないうちにきっちりした感じになっちゃってるの。いざ先生から感情込めてって言われても、困ることあるから、有人くんの吹き方も参考になったよ」

「感情つつつても」有人は肩をすくめた。「羽修館は楽しく吹くってことしか考えてないけどな」
「それが、羽修館の音ってこと？」
「まあ、みんなでもっと練習積んでけば——」言いかけて、有人は照れ笑いを浮かべた。「って、さっき風香が言ってたことか」
「分かってもらえた？」
風香はにっこり笑った。

(竹内真「ぱらっぱフーガ」より)

注1 オーディションの時……旺華高校の吹奏楽部で毎年行われている、吹奏楽コンクールでのレギュラーを決めるオーディション。こ

の時風香は、中学生の時の有人の演奏をイメージしながら演奏した。

注2 倍音……ある音の周波数（一秒間に何回振動するかを表す数値）が整数倍になった音。

注3 ファースト……中心的な旋律の担当。

注4 セカンド……ファーストの伴奏やハーモニーの担当。

(1) ……線部A「向上心」と熟語の組み立てが同じものを、次のア～エから一つ選び、記号で答えなさい。

ア 無意識 イ 衣食住 ウ 建築物 エ 初対面

(2) ……線部B「いざ」はどの言葉をくわしくしていますか。最も適切なものを——線部ア～エから一つ選び、記号で答えなさい。

ア 込めて イ 言われても ウ 困る エ あるから

(3) ……にあてはまる語句として最も適切なものを次のア～エから一つ選び、記号で答えなさい。

ア きっと イ ほっと ウ むっと エ すっと

(4) ……線部①「音楽の喜びは日々味わっている」とありますが、有人が考える音楽の喜びと、風香が考える音楽の喜びとはそれぞれどのようなのですか。本文中の言葉を使って説明しなさい。

(5) ……線部②「有人は反発を覚えた」とありますが、なぜですか。理由として最も適切なものを次のア～エから一つ選び、記号で答えなさい。

ア 自分は今の高校の吹奏楽部で十分満足のいく活動ができているにも関わらず、技術や向上心ばかりを求めて必要以上に高いレベルを他人の高校にも要求する風香をおせっかいでうっとうしいと感じたから。

イ 中学時代は一緒に吹奏楽部でがんばってきただけで演奏のレベルも自分とほとんど変わらないであろう風香が、違う高校に行ったとたん自分を見下し、えらそうに意見するようになったことに驚きを感じたから。

ウ 自分が気にしている高校受験の失敗をわざわざ思い出させるような話をしておきながら、申し訳なさそうな態度をとる風香の中途半端な優しさに、二人の間に以前はなかった距離ができてしまったと感じたから。

エ 本当は風香と同じ高校の吹奏楽部へ入り一緒にがんばりたいと思っていたが、それがかなわず、それでも今の居場所自分なりに吹奏楽をがんばってやっていることを、風香が理解してくれないと感じたから。

(6) ……線部③「吹き終えたところで首を振った」とありますが、有人はなぜ首を振ったのですか。理由として最も適切なものを次のア～エから一つ選び、記号で答えなさい。

ア 以前の自分の演奏に比べて音が荒れており、満足のいく演奏ができなかったから。

イ 前より上手にサクスを吹けるようになったが、風香にはかなわないと思ったから。

ウ 実力不足のせいで、風香の期待にこたえることができない自分にあきれたから。

エ 下手な演奏は自覚しているが、しっかり練習して上手になろうとも思えなかったから。

(7) ……線部④「軽い口調で言ってみた」とありますが、風香がこのような口調を意識したのはどのような気持ちがあったからですか。説明しなさい。

(8) ……線部⑤「俺だってそういうところで吹きたかったけど……」、⑥「同好会作って……そこでやってきたことの方が大事なんだ」とありますが、これらの「……」から読み取れる有人の様子を説明した文として最も適切なものを、次のア～エから一つ選び、記号で答えなさい。

ア 風香に痛いところをつかれながらも、しっかり練習をして吹奏楽を楽しみたいと思っている本心をごまかそうとしている。

イ 言葉にすることで、自分で自分のしてきたことを確認し、今の自分の吹奏楽との向き合い方に意味を見つけようとしている。

ウ 自分の気持ちはおかまいなしに、吹奏楽部はどうあるべきかということをひたすら熱く語る風香の迫力に圧倒されている。

エ 風香と向き合い、これまで自分が吹奏楽部で行ってきたことに対する自信が揺らぎ、うまく言葉が出てこなくなっている。

(9) 線部⑦「風香の思い」とありますが、どのような思いですか。六十字以内で説明しなさい。

(10) 線部⑧「言葉が途切れた方が楽になるのは何故なのだろう」とありますが、その理由として最も適切なものを次のア～エから一つ選び、記号で答えなさい。

- ア 話をしないほうが二人でサックスを吹くことに集中できるから。
 イ 二人が目指す方向がずれてきて話をしても分かり合えないから。
 ウ 久しぶりに会ったのに話をしていると気を使っているから。
 エ サックスの練習をするために会っているから練習がしたいから。

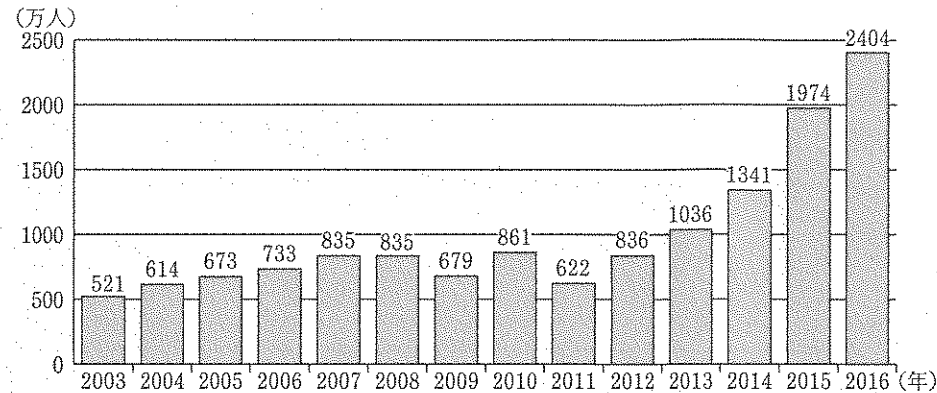
(11) この文章の内容について説明しているものとして適切なものを次のア～オから二つ選び、それぞれ記号で答えなさい。

- ア 風香は有人の演奏のレベルが落ちたことに對して、有人にどう思われるか気にしつつも、自分の意見をはっきりと伝えた。
 イ 風香は有人の才能が枯れていくことを非常に残念に思っているが、一方で有人は楽しければそれだけでいいと思っている。
 ウ 有人は風香と音楽について語り合う中で、風香に欠点を指摘され、自分の間違った考えに気付き、最後には反省した。
 エ 有人と風香の日ごろの心がけの違いが二人の演奏にははっきりと表れているが、有人はそのことに気付けないままにいる。
 オ 音楽に対する意識のずれからぶつかっていた有人と風香だが、最後にはお互いに相手の思いをくんで、態度をやわらげた。

三 田中さんのクラスでは、何か興味のあることについて調べて、授業中に発表することになりました。田中さんは、日本を旅行で訪れる外国人について調べることにしました。次は、田中さんが見つけた資料と、発表原稿です。これらを読んで、あとの問いに答えなさい。

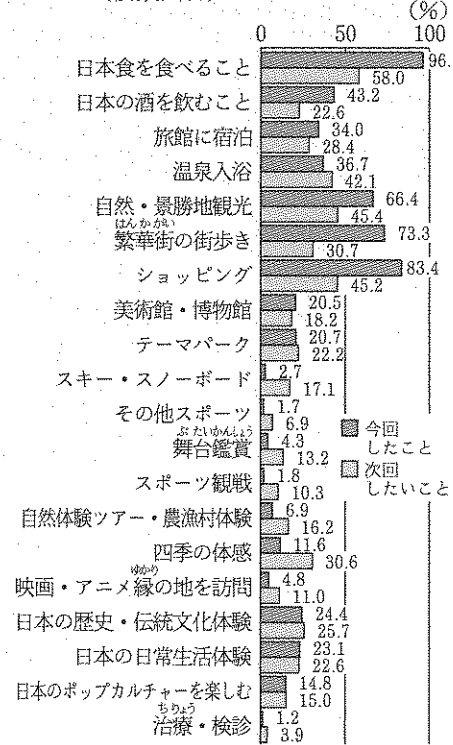
○田中さんが見つけた資料

資料1 訪日外国人旅行者数の推移



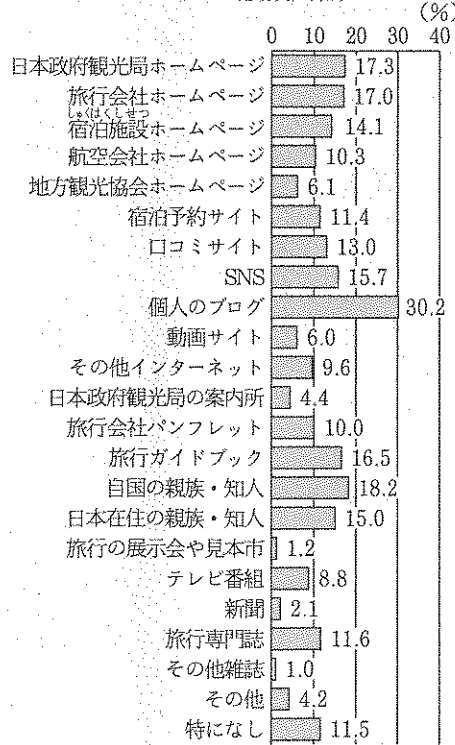
(日本政府観光局(JNTO)統計データより作成)

資料3 今回したことと次回したいこと(複数回答)



(観光庁「訪日外国人の消費動向」(平成28年 年次報告書)より)

資料2 出発前に得た旅行情報源で役立ったもの(複数回答)



○発表原稿

日本を訪れた外国人旅行者について調べていると、まず、資料1が見つかりました。日本を訪れる外国人旅行者はだんだん増加して

り、今後も増えていくことと予想されます。そこで、日本を訪れる外国人旅行者の皆さんに満足して自国に帰ってもらうために、私たちは何ができるのかを考えてみることにしました。【資料2からは、外国の方が日本について情報を得る際、主に何を参考にしているのかが分かります。個人のブログや自国の親族・知人の話という回答が多いことから、公式に発信されている情報よりも、生の声が役立っているのと読み取れます。対して、日本政府や企業などのホームページはほとんど役立っているとは感じられていません。新聞や雑誌など、情報がたくさん載っていて一見役立ちそうなものも、あまり参考にされていないようです。】以上のことから、私はもっと国や企業をあげて外国人旅行者にアピールする姿勢や工夫が必要なのではないかと考えます。

では、具体的にどのようなことを外国人旅行者にアピールしていけばよいのでしょうか。資料3によると、日本食を食べること、ショッピング、繁華街の街歩き、自然・景勝地観光の四つが今回したことの回答として多かったようです。そのうち、街歩きやショッピングについては、次回したいこととして回答している人の割合が少なく、対して、日本食体験や自然・景勝地観光と回答した人はあまり減少していません。また、温泉入浴、四季の体感などは、次回したいことの割合が今回したことの割合を上回っています。以上のことより、私は、A の情報の発信に力を入れていくべきだと考えます。

また、そのような取り組みをする一方で、日本に住む私たちが外国人旅行者を受け入れる体勢を整えておくことも大切です。例えば、B といった工夫などができるのではないのでしょうか。いずれにしろ、これからも増加し続けるであろう外国人旅行者に国、地域、個人、あらゆる規模で対応していくことが必要になるかと思えます。以上で発表を終わります。

- (1) 田中さんは発表前に、友人の佐藤さんに原稿のチェックをしてもらいました。すると、佐藤さんは「線部『だんだん増加しており』という部分に対し、次のようなアドバイスをしてくれました。 にあてはまる言葉として最も適切なものをあとのア～エから一つ選び、記号で答えなさい。

○佐藤さんのアドバイス

『『だんだん増加』という表現は資料の説明として に欠けていると思う。ここは、『二〇〇三年から二〇一二年までは、ほとんどの年においておよそ100万人前後で増加していたが、二〇一四年以降は急激に増加の割合が高くなった』と直したほうがよい。』

ア 具体性 イ 信用性 ウ 正当性 エ 主体性

- (2) 発表原稿の中に、資料2の読み取りとして間違っているところがあります。あてはまるものを【 】の中から一文選び、はじめの三字を書きなさい。

- (3) A、B にあてはまる言葉を、発表原稿の流れをふまえてそれぞれ考えて書きなさい。

- (4) 田中さんは1～3の資料を使って、何を一番伝えたかったのでしょうか。説明した次の文のI、IIにあてはまる言葉を、本文全体をふまえてそれぞれ書きなさい。

I ので、II ということ。

国語 解答用紙

受験
番号

得点

一									
(9)	(8)	(7)	(6)	(4)	(3)	(2)	(1)		
文法			第一人称				a		
修辞									き
									b
							(5)		
			第二人称						c
			(10)				コミュニケーション。		
								e	

二																								
(10)	(9)			(8)	(7)	(5)	(4)	(1)																
							風香の喜び																	
												(6)			(2)									
															(3)									

三											
(4)		(3)		(1)							
II	I	B	A								
				(2)							